

## 屋根設置型ソーラーパネルの停電時の電力確保について PART 1

多くの家庭の屋根に設置されているソーラーパネルは10kw未満であり、余剰買取制度の対象であると思われます。→ ソーラーパネルが発電した電力は家庭で使用され、余った電力は売電される（設置されたソーラーパネルの契約を確認が必要）  
15号台風時の停電時でソーラーパネルはどうなっていたのか、を検証する。

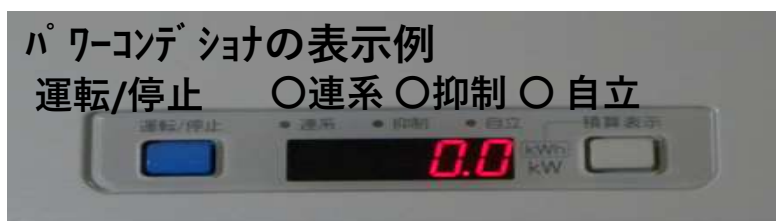
→ 停電時に、何もしないとこのシステムは機能していない  
(何もしないと、家庭内での使用も売電も出来ないで、放電されるだけである)  
→ 一方、この仕組みを理解し、以下の方法で活用することで今回の停電時の影響を最小化できる（この事があまり理解されず、無用の長物化？）

今後の震災時に備え、このシステムを理解して、次の震災時に活用を提案する

→ ソーラーパネルのメーカーの取扱い説明書を必ず見て下さい。

(自主防災でも相談可能です)

太陽光発電システムには、①連携運転 ②自立運転の2系統がある  
通常は①の連携運転であるが、停電時は②自立運転に切替える事で  
昼間、天候にもよるが 100V 1000W前後の電気を使用できる。



以下はその代表的な切替方法 PART 2 で詳細を説明します。

停電時

- ① 「運転/停止」ボタンを押し、運転を停止する  
→ 表示が消える（パワーコンディショナが運転を停止）
- ② 「太陽光発電システム専用ブレーカ」をOFFにする  
→ 通常は家庭用の分電盤の近くに別個に設置されている
- ③ 「運転/停止」ボタンをもう一度押す
- ④ 「自立運転」のランプが点灯する
- ⑤ 約10秒後に自立運転用コンセントを利用して100Vの電力が利用できる  
→ その時の天候で利用できる電気能力が決まります  
(夜間は利用不可ですので、昼間に何をするかです)

復電時

- ① 「運転/停止」ボタンを押し、運転を停止する  
→ 表示が消える（パワーコンディショナが運転を停止）
- ② 「太陽光発電システム専用ブレーカ」をONにする  
→ 通常は家庭用の分電盤の近くに別個に設置されている
- ③ 「運転/停止」ボタンを押し、「連系運転」のランプが点滅する  
→ 約5分間、カウントダウンの表示が出ます  
→ 「連携運転」のランプが点灯して、最初の状態に戻ります  
(この操作を実施しないと復電後でも売電が出来ていない状態)

295秒後に「連系」が「点滅→点灯」になることを表示（紛らわしい？）



通常の連系運転表示例



停電時の利用については PART 2で紹介します。